

# 出向く宮農レポート

～スナップエンドウの防除について～



北部宮農センター  
三浦 篤修

今回は、長久手産直友の会会員である山本敦さんの圃場へ訪問しました。  
山本さんは昨年産直友の会に加入され、同会会員の山本茂彦さんのもとで農業を学ぶ傍ら、畑作を一緒に行っています。

現在、山本さんの圃場では、出荷中のネギをはじめ、春の収穫に向けて玉ねぎやスナップエンドウなど10種類以上の野菜を栽培されています。

今回はスナップエンドウの今後の防除について説明をしました。

まず、結莢期(3月中旬～)にうどんこ病が多発しますので、ジーファイン水和剤やトリフミン水和剤などを使用して予防します。葉や茎などに白い粉状のものが生じる前から使用することが重要です。

また、枯れた葉などを取り除き、株の風通しを良くすることも予防につながります。

3月頃から多発するアブラムシについて、株の吸汁によって生育不良が起こり、モザイク病などを媒介する恐れがあるため防除が不可欠です。マラソン乳剤やスミチオン乳剤以外にもウララDF、スタークル顆粒水和剤、コルト顆粒水和剤などがおすすめです。

また、山本さんに同じ農薬を使用し続けると害虫がその薬剤に対して抵抗性を持つ恐れがあるため、作用機構の異なる農薬をローテーションで使うことが効果的かつ効率的な防除に繋がることを説明しました。

山本さんは「防除をしっかり行い、昨年よりも出荷量を増やしたい」と意気込んでいました。長久手グリーンセンターでスナップエンドウを見かけたらぜひ手に取ってみてください。



## スナップエンドウの病害虫対策

### スミチオン乳剤

植物の体内に侵入した害虫にも有効で、卵から成虫まで高い殺虫効果があります。

- 希釈倍数: 1,000～2,000倍
- 使用料: 100～300L/10a
- 使用時期: 収穫21日前まで

